



平成19年11月28日

各 位

会 社 名 日本開閉器工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 大橋 智成
(JASDAQ・コード6943)
問合せ先
役職・氏名 取締役・市川 忠夫
電話044-813-8026

平成20年3月期中間（連結・単独）業績予想との差異及び 通期（連結・単独）業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想について、平成19年5月29日付当社「平成19年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年3月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

(単位：百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前回予想 (A)	4,700	529	597	343
今回修正 (B)	4,550	321	399	157
増減額 (B-A)	△150	△208	△198	△186
増 減 率	△3.2%	△39.3%	△33.2%	△54.2%

(2) 修正理由

- 平成19年度上期の産業用スイッチ（操作用スイッチ）市場の出荷総額は、前年比99%とマイナス成長でした。当社の売上高については前年同期比でプラス成長（114百万円増）であったものの、予想対比では150百万円減(△3.2%)の4,550百万円となる見込みです。
- 営業利益など利益につきましては、原油価格の高騰による原材料・部品のコスト上昇が利益全体に影響を受けております。当社グループの個別要因としては、納期改革を目的にした新ITシステム（ERP）の導入に伴う減価償却費・償却費（ソフト）の増加が挙げられます。新システム導入時の納期問題等のリスクを回避するため、政策的に在庫を積み増しました。その結果、一時的に、棚卸資産が増加し製品・商品および材料・部品の評価損が増加していま

す。この結果経常利益につきましては、当初予想対比 198 百万円減の 399 百万円となる見込みです。

- ③ 中国工場への移管作業は問題なく完了し正常に稼働しておりますが、中国生産シフト後も生産の安全確保というリスク管理の観点から、中国生産品目の在庫の積み増しならびに日本における生産自動機設備の維持管理を継続し、いつでも生産を再開できる状況にしております。しかしこれらの保有機械は、生産に直接使用しない設備のため、会計上特別損失として減損処理を実施しています。この結果、最終的に中間純利益は当初予想対比 186 百万円減の 157 百万円となる見込みです。

(3) 通期 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	9,600	1,078	1,212	700
今回修正 (B)	9,200	890	1,000	550
増減額 (B-A)	△400	△188	△212	△150
増減率	△4.2%	△17.4%	△17.5%	△21.4%

(4) 修正理由

- ① 売上高につきましては、平成19年度下期も上期の産業用スイッチ業界の状況が継続する可能性が高いことから、予想を修正いたします。
- ② 営業利益・経常利益・当期純利益につきましては、上期実績を考慮して下期予想を修正いたします。

(5) ご参考：前期の実績 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期 (4/1～9/30)	4,436	496	533	285
通期 (4/1～3/31)	8,855	925	1,053	645

2. 平成20年3月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	3,900	540	580	360
今回修正 (B)	3,799	407	449	218
増減額 (B-A)	△101	△133	△131	△142
増減率	△2.6%	△24.6%	△22.6%	△39.4%

(2) 修正理由

- ① 売上高については、中国工場生産品目の当社を通らない販売子会社からの直接販売比

率が増加していることにより、当社予想対比 101 百万円減の 3,799 百万円となる見込みです。

- ② 経常利益、中間純利益の減少要因につきましては、連結修正理由と同様です。

(3) 通期 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	7,900	1,094	1,175	729
今回修正 (B)	7,600	815	900	440
増減額 (B-A)	△300	△279	△275	△289
増減率	△3.8%	△25.5%	△23.4%	△39.6%

(3) 修正の理由

- ① 売上高につきましては、平成19年度下期も上期の産業用スイッチ業界の状況が継続する可能性が高いことから、予想を修正いたします。
- ② 営業利益・経常利益・当期純利益につきましては、上期実績を考慮して下期予想を修正いたします。

(4) ご参考：前期の実績 (平成18年4月1日～平成19年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期 (4/1～9/30)	3,832	535	579	339
通期 (4/1～3/31)	7,551	908	1,040	682

以 上